「農村におけるわが同志の任務」(「農村青年」第三号、 昭和六年(1931)十二月発行)

このスロ のスローガンのもとに一県の全同志が互いに連絡をはかって猛進しつつあるとき、ある県においては殆んど各部分は孤立的であにおいては、一県的に結合が行なわれ、村および町市における各同志は密接なる革命的協議をとげつつある。「県の こ と は 県域におけるわれわれの運動は実績上進展をなした。しかし、全国的に鳥瞰するときには、後れたる地域がある。もっとも進歩せ 消極的状態にとじこもっているかに見えるのは遺憾である。

今日のこの混沌せる社会状態を見よ。

とは決定的に必要なことである。 最早、わが同志は一郡的区画、一県的単位、広くは関西、中国等に一地方的なる、密接なるまこれはわが同志の活動によって全解放的革命にまで誘導し得る決定的なチャンスとなし得る。 密接なる連絡によって、 直接的に協議を行なうこ

きであって、

水であり、空気である。 なく、その効果は現われつつある。最近、 なく、その効果は現われつつある。最近、村民の空気はこの不安なる生活事実に直面し、「どうすればよいか」ということが村民の要青年会への潜入、ピラ、ポスターの臨機応変なる配布、その他により行動に鼓舞し、思想の拡充をはかりつつあることは言うまでも、全村のうちに拡充しつつあり、革命的宜伝は間断なく行なわれつつある。吾が黒色思想の全村的動向、即ち民衆の中から生起する、暴動に終らずして明瞭なる新社会の建設概念を把握せる民衆烽起 たる べらであって、この結合ある地理的革命単位が、実際に樹立されることを指すものである。

また、協同組合等による農業経営の改善による生活の救治についてもそれは永久に行詰りを打破するものでないことを悟り)小作争議地方の農民には経験的に把握された見方が生まれつつある。全国農民組合などのいわゆる経済闘争は、投票かきあつめのための一手段であり、農民は利用されている、という点に関し、 という点に関し、 これ

つつあ

らないときである。これこそどうすればよいかという全村の空気にこたえるもっとも簡明にして、正確なる答菩が同志は、今日「収用」の意義を明らかにし、結局、いわゆる直接行動、政治否定のわが方法について、ここに、どうすればいいかという死活の問題に農民は直面している。 正確なる答えではあるまい 収用を大胆に語らねばな

それ故、決定的同志を各村的に獲得することは今日の革命的一大使命であって、この具体的なプランとして、同志の質上、概念の把握においては広くはあるが浅いことは避けがたいところである。として村民衆から忘却され、革命(アナキスト革命)のチャンスは彼方へと去って行くであろう。この時にあたって尽として村民衆から忘却され、革命(アナキスト革命)のチャンスは彼方へと去って行くであろう。この時にあたって尽社会情勢は切迫しつつある。全村動向の方向を大胆に「収用革命」に指示しなければ、無政府主義は単なる空想的、 この時にあたって民衆層は、 牧歌的なるも その性

に最大限度にまで積極化せよ。 同志の採れる方法を更

醒まし、 にはい 行青年を直接の目標とするより、有効なる手段である。 農村においての活動的青年、 られ 誤まった理論を克服し、 ぬ熱情的青年が、 心、黒旗のもとに拉し来ることは、吾々の運動に一勢力を加えるゆえんであってこれは残されたる勤倹力一応ボルに走ることは怪しむに足りない。吾々は農村のボル青年にも大いに働らきかけ、それを迷夢から、急進命子は今日多くボルの陣営にある。虚偽に宣伝されるロシアという虚像にまどわされ、何か為さず

得せねばならぬ。 そのためにわれ等は公式主義的にボル青年を白眼視する以外に能のない方法を排する。 われ等は積極的に有能なるこれらの青年を獲

わが同志の再自

武を直接的に革命のためにすすめねばならない。すなわち、革命は今日の問題であるということの再自覚である。農村の頑固な伝統の客観的勢力のために、とに角、停滞的となり、一か所的に堂々めぐりに陥りやすい過程的運動を覚が行なわれ、運動は一段と即時、革命そのものを行なうため、直接的運動に転化しなければならないのではないか。これら一切の農村における運動は、さらに、無政府主義の全運動の一転向期をむかえつつある最近の動向について、 切り あげて、 歩

にぶっつける運動に主力を転向するであろう。しかして、これを機縁として、より大担なるプロパガンダが開始され、る民衆の信頼である。この信頼がなければ思想の拡充すらむつかしい。吾が都会における同志は抽象的説得的運動から都会では、その性質上、一箇の抽象的説得主義は成功せず、ある実体によって強行されつつある事実を注意する。こ 一進歩を来たすものと考えられる。 これ わが革命運動に 「行動」を社会 力 に対す

れつつあることの注意を全的に喚起したい。この運動の一転機に対し、農村の同志が運動的にさらに緊張するは勿論、 即時革命に対する迅速なる手段をどしどし行なう必要に迫

にこの時期には、 九月十八日、 満州事変 (柳条溝事件) が発生し、 東北、 北海道を 初めとする凶作は決定的とな 0 7 V たの であ

地理区画の樹立も、 村的一郡的弧立から一県的、 一地方的革命単位が要望せられ、 全村運動の中に、 収用の概念をかかげるよう要

来った全県の諸同志に事改めて言うまでもないが、かえることは一責務である。 十二月発行)

たむけての躍進を誓う。思えば感慨無量、胸に溢れるものを感ずる。
「わユニー年の歳末にあたって本年におけるわが農青運動の意義をふりか
「われ等はいかに歩んだか」―1931年における農青運動の意義― 全能力 たかか

戦線に強力なる実行運動が叫ばれつつあり、多難なるわれ等が荆莿のみち、 切にご自愛とご健闘を切望する。

「農村運動の一躍進」

つづけられてきた。諸氏によって埼玉県浦和町 県熊谷町「小作人社」から創まり、 この 国におけるアナキズムの農村運動は第一に大正十 「小作人社」によって創められた。そし創まり、大正十五年(1926)四月、 年 (1922)十一月、 そして昭和三年 22)十一月、古田大次郎、渡辺善寿、その他の諸氏によれる** 黒色青年連盟の結成における農村連盟の望月桂、木下茂、黒色青年連盟の結成における農村連盟の望月桂、木下茂、 の諸氏によって埼玉 るまで闘 その他の い は

その後、 「農民自由連合」がわずかな期間、 その後身として起こった。 その休刊のあとをうけて、 「農村青年社」 が本年 (昭和六年、

1931) 三月に創められたのである。

小作人社時代と農青社時代のこの歴史的差異――農民の中へから農民の中から――はアナキズムにおける農村運即ち、「農青運動」には実質的な基礎がある。「革命の地理的単位」の機関紙として生まれたものである。っていた全国各村の同志による、農民の中からの諸動向を反映して、農民の中から誕生したのである。農民自身の運動の綜合ではなく、上からなる啓蒙であったのではなかろうか。が、その歴史的役割は果たされ、農民自身の運動の綜合ではなく、上からなる啓蒙であったのではなかろうか。が、その歴史的役割は果たされ、農民自身の運動の綜合ではなく、上からなる啓蒙であったのではなかろうか。が、その歴史的役割は果たされ、 黙々 ここに ٤ ししてい 地底を堀

を示す ものである。 はアナキズムにおける農村運動の本質的 なる躍進

「自主分散の高唱」

等の活動も示さず、その住める村において、 と都会とを問わず、 農村に既にある同志の積極的、 その住める村において、独善的に、孤立して存在するのみであった。これでは全村運動の起こるべきい われ が 無既成アナキストの比較的多数は種々なる事情のもとにいわゆる存在的アナキストになりおわり、彼自身としては何ヒ志の積極的、自発的活動を意識的に強調して今日までやってきた。それはどんな訳からであったかと言えば、農村

と展開を積極化することにあった。 そこで「農青」の第一任務は、この存在的傾向を打破して、、運動の無いところに革命の実際的展望は全くない。 各人の奮起を促が Ļ 各人がその各所におい て、 自発的に村運動の

相互に反省する点があ そのためには従来の独善的 ったのである。 E ロイスト的 な態度の否定、 _ 般村民 ~ 白眼視を以っ て自らを高しとする態度、 そ の他に 0 V T P また

「県のことは県で」

キズム革命の招来はできないと信じている。 吾々は飽くまで思想をもった民衆運動の形態でなければ、 アナキスト革命は行なわれ ない。 前衛諸党派の陰謀に 0 みよっ T は、 アナ

の烽起単位の樹立を目標に闘ってきた。こうした事情を反映して、同志の一郡的結合をモットーとしこうした事情を反映して、同志の一郡的結合をモットーとしる全村運動を育てることに没頭したのである。 民衆の中にアナキズムが浸透し、そこから起こってくるコン かミ の陰謀を否定し、アナキズムによって動向する民衆運動――村におけユンの目標に立つ民衆烽起でなければアナキスト革命は成功しない。

た。 住ん でいる村とその近接村とを打って一丸とする 地 理的

級に対し抗し得ない。こうした実際の必要上吾々は一県下的に、今夏の農閑期間において、同志の重大なる会合が、各県で行なわれたと同時に、同一県下における同時的蜂起が絶体に必要であって、この全県的擾乱が起こるのでなければ、その勢力は実際上、支配階これは革命におけるもっとも実際的手段である。われわれは、目下、この地理的区画の確立にむかって全力を注ぎつつある。 である。

克服されるのだ。即ち、 こうした空気の打破をもふくめて、一県の実質的運動を確立する意味でも「県のことは県で」の自主分散を意味するスローガンは理が怠られ、ただ、個人と東京との連絡のみがはかられ、そこに停止することが多かった。服されるのだ。即ち、農民の中への運動時代に培われた弊によって一県的に確立する努力、自分自身の県に働きかけて育てて行く努服されるのだ。即ち、農民の中への運動時代に培われた弊によって一県的に確立する努力、自分自身の県に働きかけて育てて行く努順のことは県で」このスローガンはこうした事情から生まれた。俺たちの県だ、こうした切迫した真情が濃くながれてこそ困難が無論、一県下のことについて身命を賭ける者はその県の同志のほかにはあり得ない。吾々はそれを認識しなければならない。

解され

る社会情勢に直面してなされねばならない当然の任務である。吾々はこうした一定の方針のもとに進んできたのである。 今や、一県的結合は大体において果され、その各県の実質的なる全国的結合が行なわれようとしている。これは、今日のこの切迫せ

「如何に為すべ きか

家」にはこの重大な差異について書かれている。遊離を来たしたのだろうか。それはひと口に言えば抽象理想主義と実践理想主義との差にもとづくものである。さきにも述べたところであるがアナキズム運動の進展の一障害となったものは、民衆との遊離が原因である。 バクー クー 一二ンの ンの 「神と国

青運動」も革命の実践であり、 る」バクーニンのような実際の実行家が、実践性をはなれ、いわば宗教的信仰にも似た観念的態度を採りえなかっである……」であるから、それ等の理想は詮じつめてしまえば「大部分を観念的に抽象的に詩的な感情のうえに基バクーニンは観念的(抽象的)理想主義について述べる。「かれ等の全哲学は次のように言える。それは一種の 観念の遊戯ではない。それはもとより実践理想主義に立つ。 理想を情緒的に把握するものではない 2情のうえに基礎づけているのであそれは一種の形似上学的敬虔主義 たのは当然で、 一農

K 陥るよりほかはない。

吾々は、こうした観念的理想主義と、

まえのあり えのありふれた一般民衆への関心を失わしめてしまう。ここに民衆との遊離を来たす大きな原因が生まれるのである。観念的理想主義は一個の強権主義となるは勿論、また、当然、独善主義となり、英雄主義となって自己陶酔を生ぜしめ吾々は、こうした観念的理想主義と、実践的理想主義とをはっきり区別せねばならぬ。 8 実践理想主義 平凡で当

「如何に為すべきか」は、この実践的理想主義たる農村におけるアナキズム運動について詳説しは現実主義、若しくは利害日常闘争主義(改良主義)とは全然違う。それは言うまでもあるまい。 L たもの 6 ある。

それは三つの力点がある。

Ξ勢においては日常闘争も避けられない。その闘争を回避せず、われわれは一個のアナキストとし|は日常闘争について実践的態度を明らかにした。ひとくちで言えば日常闘争主義は否定するが、は民衆への実質的拡充。その具体策としては村青年会へのはたらきかけ等々。 「実存」の問題に属する。 て闘わねばならぬ。こ生活事実において当然、 これは、 ま客

三は、 直接革命を追求せねばならず、 そのためには陥りやすい過程的一切の方法を排し、 路、 革命の実践に向かう べきこと を 示 L

このような意義はわが同志の間に透徹したのである。

の傾向」

動」を以って啓蒙派と片づけるのは嗤うべき近視の徒である。勝手に考え、空想的に革命をでっちあげることは許されない。事実に当っ理論的には何と言ったとて、それで実際の説明にはならない。実践的に て事実を観察しなければ冷静 ffな手段は生まり みそれが革命のも 実れな ない。「農青運

運動が行なわれる。理論の遊戯は一切民衆の無視に逢うのである。この意義において黒色テロルのごとき問題ははじめて吾々は啓蒙のための啓蒙主義も同時に否定した。しかして、今日、社会状勢の切迫とともに、社会運動は、いきおい実 を れを契機として、どしどしわが大胆なる破壊と建設とを宣伝し、直接、収用革命へ強行ちとることができる。社会テロルは生命をもって動向する。これは正しく当然である。 実行的、 意義ある実蹟 実形的

向である。 へ強行せねばなら NZ. これが戦線最近の正しい 動

である。云々。 しかし、甲論乙駁があって、この拡充の方法よりも、まず、一村、あるいは地理的一区画に対する思想の拡充は、リイフの 青年会のと の急進分子、全 ラ、 全農とか無産党の左傾青年を獲得することが先決ーの村中への貼りめぐらしによって広 く なされ

協盟の同志なくしては全村運動、 この双方は同時的に行なわねばならぬものと信じる。ただ、 革命的発展はのぞまれない。 村の事情に従って若干双方のどちらへ重点を注ぐ カン がきまる。

農村における革命運動の今後の問題は何であるか。「農村におけるアナキズム運動の今後」 |理的一区画地方は、各々その革命の一単位である。一県は革命の一単位である。| 一人の地方は、各々その革命の一単位である。 吾々はもとより、中央なる存在さ、また、われわれは決意をもたねばならぬ。 吾々はもとより、中央なる存在さ。今後はますます重大である。諸同志の活動に対する期待は実に大きいのだ。ではおける革命運動の今後の問題は何であるか。それは本紙の第一面「農村によける革命運動の今後の問題は何であるか。それは本紙の第一面「農村によりる革命運動の今後の問題は何であるか。 「農村における わが 同志の 任 務 K も片鱗を 5 カン から 5 とが

そして、 中央なる存在はな い

ら烽起することにあるのである。 一県は革命の一単位である。 吾々の手段はこの単位の確立によっ て、 全国か

を可能にせ ねば、何等、 である。 ただ、ここには簡単に二、三実際的希望はあり得ない。 三のことに 一のことについて数言を費すわれ等はいかに歩んだか、 のし み。 かして、 吾々 は相互に誓おうではないかいかに歩まんとするのか。 か。それは書き

「革命的単位たる一地理区画を確立せよ」 ―自然発生的無方針を清算して合目的な意識― (「農村青年」 昭和七年 (1 9 ω 2

点にあるか。 Z が今日まで闘争しき たった運動におい ていかなる展開を遂げた か L カン してその結果としての今日の吾戦線 の現状は VI かなる地

吾々はこの答として三つのものを挙げることができる。 次にこの三つを典型的 いなかたちにひき ひき直し て説明する。

である。 るものであって、 ものであって、この方法においては、運動の結果はその性質上、どの程度まで効そのAは、主として広汎に全村の動向を起誘するために、一村の各戸へリイフ、 どの程度まで効果をあたえたか、 たか、短時日では判然しない性質ポスター類によるアジプロ等に の専 \$ 念す 0

として獲得し、全のBは、全 全村動 盤対動向のた いずれにも偏せず、一方においては全村動向の空気を育成助長するとともにループの一員とすることに専念することである。ための確実なる端緒として先ず一村における有望なる青年にはたらきかけ、 直接の個人的接触によって、 同志

努力しつつある所のものである。 そのCは、この双方の とともに、 他方にお V T は 同志 の獲得に

いずれ にせよ全村の動向に努力し、 協力的グ iv 1 プ 0 _-員として新ら L い同志を獲得するこの 方面は不断 0 わ 九 等 0 闘 争 6 あ

5 新同志の獲得の、 ح 0 世 ま V 1

に 革**、**革 デオ 中命・命 口 # 単位たる一地理区画を樹立、の発生を招来し、その可能やいた。というでは、この可能を対象し、この可能を対象している。 なが 吾 々には忘れて かぎり、 でするという実際方針である。 でするという実際方針である。 では、 ならない。 それは即ち、 でででするには、 より実際的なプランによることを認識せねばならない。 それは即ち、 ぎり、 吾々の招来せんとする革命の烽起とその可能はいまだ実行的保証を得てはいない。 ではならない根本的な問題がある。 一村における全村的動向の酸成と、新同志の獲得の、なけならない根本的な問題がある。 われ われが急速

イデオロギ 命単位たる一地理区画 とその軍事的活動の切可によったよう。「一県的烽起は一単位として形及には何であるか、それについて次の言葉を引用したい。「一県的烽起は一単位として形及にとは何であるか、われわれはそれを如何に樹立しそれによって行動するか?」の自然発生的限界から合目的な実行的運動に足を踏みこむ重大なる根本的態度である。の自然発生的限界から合目的な実行的運動に足を踏みこむ重大なる根本的態度である。 意識的 な態度であ 5

「地理区画とは何であるか、

地理区画とは何であるか。 地理とその軍事的活動の如何によっ 「一県的烽起は一単位として形成される。 県的烽起は一革命単位

0 的地理 一区画の烽起可能を目標に全闘争と全拡充の一区画をアナキズム闘地理区画である革命単位たる一地理区画の確立とは何であるか。には、山脈あるいは河川とかその他の自然状態によって、おのずか 5 ある一地理区画がある。 今日 0 郡 あるいは若

全県のな この かの若干県、 争の土地に獲得することである

猛烈に確立闘争をなすこ K 2 7

実際的にわれわれ であるならば、 ているという。理的区画を如何にして樹立するか。否、進歩的な数県においては、すでに、かかる区画の意識的確立こそわれわれの当面のそしてまた根本的スローガンであらればならぬ。は農村民衆とともに支配階級と尖鋭に対立し、革命を招来することができるであろう。は農村民衆とともに支配階級と尖鋭に対立し、革命を招来することができるであろう。一千県、一県のうち二、或いは三区画に対し、この区画を烽起単位として、猛烈に確立闘争をな カン かる革命単位

たる地理

0

画

は意識的に樹立せられ

つつある。

直接行りである。

なし崩し的に必要である。 (警察的権力機関はもとより)を計画的に破壊することが、 定 の時期、 ある

る技術に対する準備は同志諸君! 整備し たか!

T '負けてはならぬ。勝たねばならない。闘志なきところ、実践なきところに何の勝利があろう。諸兄よ、誓おう、全生活を闘争'。生活が主か、運動が主か。それは今更論ずるまでもない。全生活は即ちこの目的のためにあるのだ。革命は力である。吾々革命を民衆のものたらしめよ。革命をアナキスト革命たらしめよ。吾々はその目的を達せんがために全努力を集中しなけ れば 争へは ! 断じ な 6

に終 若や以上 -の県において一ったわけである。 「全国情勢報告」に関連する て一県内における県内同志の会合が行なわれたこと、地理区画相互の重をは『とり・・・・のる。これを通じて、若干の地方では地理区画の意識的樹立の努力が行なわれつつあること、昭和六年のようでは、『農村青年』第三号、第四号掲載の革命的地理区画の意識的樹立に関する農青の 昭和六年、 ねばならぬことなどが明 主張は、 の夏の農閑期

161 第五章

ない になっ ということも述べられた。 もし可能性があれ ば、 地理区画を軍事的に防衛する高度の意識も、 状勢の急迫 から考えて必要で

題で 事実であった。 あることが指摘された。しかし、かし、こうした地理区画の樹立が Us Vs ずれにせよ、農青イズムの地理区画の樹立に関する概念は充分に浸透かに困難であるかが明白なだけにこの急速なる進展が昭和七年(19 L ω たことに における同志 0 0 な

載されており、右の題名の示すどとく、載されており、右の題名の示すどとく、 るので、 第四号とほとんど重複する点が少なくないが、筆者(注73)が異なるため、れており、右の題名の示すごとく、やはり地理区画に関連している。しかなれ、「農村青年」昭和七年(1932)三月十二日発行、三月第五号にも 併せて以下に収録した。 が異なるため、 L 、同一の問題であっても、力点のおき方がかなり違っし、そこに述べている問題は、 前 述 の 「農村青年」「全国各地区の直接連絡を強行せよ」と題する主張が て第掲

五号の執筆者は鈴木である。 (注73) さきに (注72) において、 地裁判決書のなかで示されたとおり、 前述の 「農村青年」第三号、 第四号の執筆者は宮崎、

全国各地区の直 接連絡を強行せよ」 他力的仲介連絡の粗漏を排し自主的な相互連絡をとれ (「農村青年」 昭 和 七年 9 w

理区画の確立と同時に、 今までの連絡は概ね仲介的連絡機関たる組合、 吾々の革命に において、 絶体に欠くべ および団体によって、 によって、間接的に交渉づけられていたものだ。しからざる必須条件は、全国的地区の直接連絡である しかし 7 -れ 今

難だっ -介機関は、運動を低徊せしめ、循環的軌道を辿らしめ、あるいは連絡の粗漏は、たちまちわれわれを一網打尽の危険に つ き お とった。しかし、今日、その如何なる理由に係らず、この仲介連絡は、革命を失敗に陥れるものであることを知らねばならない。および直接に相互を知得するための莫大な費用と時間と労苦、これは少数者の吾々の現実闘争に逼迫する現状においては、至極困論、われわれがこれまで、この仲介的連絡の方法に頼らなければならなかった理由は幾多ある。即ち、各地同志の意向と確信の理 われわれがこれまで、この仲介的連絡の方法にの自由連合が依然として不振なる理由である。

、機関は、運動を低徊せしめ、循環的軌道を辿らしめ、た。しかし、今日、その如何なる理由に係らず、この

吾々の今までの経験から明らかだ。

この仲介連絡の粗漏を解剖すれば、

未知のままである。 各地にある未知の同志の連絡が、 さらに組合、 および団体の事故による住所移転および潰滅において、連絡の杜絡が、組合、および団体のみに求められ、未知の同志相互の間に 連絡の杜絶、 **|絶、これを原因とする運動の不振おいては、全然、隣村にありなが** 隣村にありながら

徒らに該機関 し切らんとす 仲介機関たる一面 の役割を持つ組合、 し、他力的となり、反ってその雰相互が直接に連絡するようにする 反ってその雰囲気を以 K 緩 2 漫

み交渉するときは、 C それ等の同志は混迷に陥り、 未知の 同志相互が、 ますます、 変節等の障害にあたって あるいは仲介機関を中心に は

これ言うまでもなく自意識の欠格、他力本願の錯誤に起因することは無論である。

D これるか。ここにそれら一切の粗漏を非し、え合こ、・^~ig^^ig^^きである。このとき、吾々の連絡は如可でしてごれるや、被害は甚大だ。で、これを一日も早く記憶し、その誌文を焼き捨てるべきである。このとき、吾々の連絡は如可でしてこれるや、被害は甚大だ。で、これを一日も早く記憶し、その誌文を焼き捨てるべきである。このとき、吾々の連絡は如可でしてこれるから、の仲介機関の危険は組合および団体の熾烈なる闘争の渦中において、たとえば通信、および名簿等がまったく不可抗的に突如この仲介機関の危険は組合およ この実際、このには、是非とも、 この事実こそ、吾々の運動の一も、各地区の同志の直接連絡に 々の運動の

区を頑強にかためることだ。 吾々は最早、仲⁴ 、仲介的、人頼りでは のは 黒旗目 **歴を打ち樹てる地**日だ。すなわち、

ことは禁物だ。 かくて、 しからば一地理区画の確立から全地理区画(これは各地同志の各一区画確立に伴って当然全部的に完行される)とは禁物だ。一県一郡の地理区画によって革命の烽起は契機とはなれ、それだけでは革命は全然失敗に陥る。とは禁物だ。一県一郡の地理区画が確立し、準備される。しかし、この地理区画というも、決して独善的な、即ち独りかくて、ここに地理的区画が確立し、準備される。しかし、この地理区画というも、決して独善的な、即ち独り ここに地理的区画が確立し、 かし、 よがり 0 孤立に陥る

ぬ。これ全国的に各地区の直接連絡の強行が強調される理由だ。 を持たなくてはなら

渡り合 要求してこそ初めて、 この現状において、吾々は急遽、その実行を期さなければ駄目だ。言うまでもなく、吾々の実力はここに始まるからだ。り合い。その厳重なる交渉の結果、漸く各地方の相互の直接的な連絡が可能となった。だが、これもまだ不完全である。(求してこそ初めて、われ等の自由連合の実体を具備するのだ。この直接連絡の遂行のためには、吾々の同志は各地におい殊に、一地理区画の確立において、われ等の同志はより強固な相互の連絡、すなわち、この直接連絡を以って、全地区に 全地区に Vi て、 そ 0 各所に 連絡を

は吾々は、これまで苦っこの現状において、一 まで苦慮し、 労苦したそれ以上の労力をかけなくてはならぬ。 しかも、 吾々の一年間の努力はかかってここに冬から春吾々の実力はここに始まるからだ。そのために

へ、春から夏へ、夏から冬へ、極んど全地に求められたる事実である。

らぬ。これ現下の吾々の革命に対する緊急事である。これこそ現実の急務だ。全国の同志諸君相互は直接に連絡をとるように準備した よってその役割を果たし、吾々は一刻も早く農青社のかかる意義を否定し前進しなければならぬ。革命への一大躍進を遂げなければな この連絡の完行は、絶体にいわゆる仲介機関の必要を認めざるに至ることは必定だ。然らば、そのとき、吾々の農青社がその必要に

農青社「全国情勢報告」(昭和六年(1931)十一月中旬刊)

この資料については本文(注69)に記述したが、本資料は「欠如」している。後日、入手すれば増補する。